

# 会 議 録

会 議 名	第7回 野田市生物多様性のだ戦略市民会議				
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	(1) これまでの市民会議の検討経緯と第2期戦略の方向性 (公開) (2) 第2期戦略における構成イメージ(案)について(公開) (3) 第2期戦略における取り組む事業について(公開)				
日 時	令和4年8月26日(金) (書面による審議を行った日)				
書面による審議を 行った委員の氏名	会 長 長谷川 雅美 副会長 茂木 康男 委 員 朽津 和幸、新保 國弘、田中 勝美、柄澤 保彦、 土屋 守、黒川 茂、矢口 勇二、香西 陽一郎、 鈴木 哲雄、川崎 裕幸、村田 歩、柳澤 朝江、 岡田 壽				
欠席委員氏名	委 員 田中 利勝、鈴木 隆博				
議 事	第7回野田市生物多様性のだ戦略市民会議の開催は、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面による審議とする。  【発 送 日】令和4年8月15日(月) 【締 切 日】令和4年8月26日(金) 【取りまとめ】令和4年9月16日(金) <table border="1" style="margin: 10px auto; width: 80%; text-align: center;"> <tr> <td>提出あり</td> <td>提出なし</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>2</td> </tr> </table> なお書面により、頂いた意見は、第8回会議に反映させるため、概要のみ記載する。	提出あり	提出なし	15	2
提出あり	提出なし				
15	2				

## 議題(1)これまでの市民会議の検討経緯と第2期戦略の方向性(資料1)

### 《事務局》

これまでの市民会議で頂いた意見を踏まえ、第2期戦略の方向性を次のとおりとすることを説明。

- ・分かりやすく伝えること。
- ・市・市民を主とした目線であること。
- ・地域づくりに向けたものにする。
- ・SDGsに合致したものであること。

### 《委員》

方向性について了承。「SDGsに合致した生物多様性の主流化」の意味が不明確なので分かりやすい言葉で加筆した方がよい。

### 《委員》

戦略、方向性は必要なことだが、策定までに多くの時間が割かれているので、飽くまでも実行することを目的として考えてほしい。

## 議題(2)第2期戦略における構成イメージ(案)について(資料2)

### 《事務局》

議事(1)で記載した第2期戦略の方向性に基づいた戦略の構成イメージ(将来像や目標、方針等)について説明。

### 《委員》

将来像及び目標と指標等について了承。

ただ、将来像の私たちの暮らしを支える生き物がつながるまちは良いと思うが、コウノトリも住める自然なノダの「自然な」の意味が分かりにくい。表現に工夫が必要だと思う。なぜノダをカタカナにするのか。

2050年を目標年とするなら、将来像としては、より踏み込んだ内容が必要と思う。例えば、2030年、2050年と2段階で具体的な目標を設定し、それぞれの目標を検討してはどうか。

《委員》

構成イメージの「第1章(1) 生物多様性とは」の生物多様性の説明が足りない。生物多様性がなぜ必要なのか。自然の仕組みや生態系サービスを分かりやすい言葉で説明することも必要。

また、「(2) 生物多様性の背景」：SDGs は、項目だけでも枠外に書き出した方が良いのではないか。

《委員》

現状の表現内容は全体としては良いと思いますが、コウノトリの表現をもう少し工夫してほしい。コウノトリの保全のみに焦点がいつてしまわないよう気をつけてほしい。

《委員》

今行うことは、生物多様性とは何か、この取組がなぜ必要なのかを市民の皆さん、学校等、徹底して告知をし、認知度を上げることが最重要課題だと考える。

《委員》

四つの基本方針について了承。「まもる」「いかす」「たのしむ」「つなぐ」は分かりやすく、とても良い。

生物多様性の基盤となる「場所」→場所が何を意味するのか分かりにくい。表現の工夫を検討してほしい。

次世代に引き継ぐものとして「生物多様性による「豊かな自然」とされていますが、「豊かな自然」が何を意味するか分かりにくく、人によって解釈が変わりそうなので、表現の工夫を検討してほしい。

《委員》

「方針3 生物多様性を「たのしむ」」について、生物多様性を正しく理解し「たのしむ」は、楽しむだけだと誤解も生まれる。生物多様性を理解するための自然観察会などのイベントを定期的に行うなどにより、意識がより深められると思う。

《委員》

意見ではないのですが、四つの基本方針は、1→2→3→4という順に順番に進むということではなく、それぞれの柱でそれぞれ進めるということが良いのか。

それとも、やれる項目からどんどん進めるということが良いのか。

《委員》

「まもる」「いかす」「たのしむ」「つなぐ」の方針の中の表現で、「まもる」については、地主の許可もなく法律がない中で、勝手に市が管理する土地にすることはできない。「だいにする」等、別の表現が必要と考える。

《委員》

推進体制や進行管理について了承。推進体制として市民に対する啓蒙活動が非常に重要だと思う。野田市の様々な部署が連携し、また様々な市民団体や教育機関と連携しながら、小中学生だけでなく、全市民に対する啓蒙活動を様々な媒体を通じて行うことが必要だと思う。

《委員》

「(仮称)生物多様性の戦略における事業検証会議」について、年1・2回程度で定期化し、進捗状況を確認しながら継続的に実績を積み上げていくことが必要。

《委員》

推進体制に、「こうのとりの里」運営組織、(株)野田自然共生ファームを組み入れてはどうか。

《委員》

推進体制に地主、農家も加入している自治会(連合会)を入れてはどうか。

### 議題（３）第２期戦略における取り組む事業について（資料３）

#### 《事務局》

議事（２）で記載した第２期戦略の四つの基本方針別に５９の事業案について説明。

基本方針１	生物多様性を「まもる」	２３事業
基本方針２	生物多様性を「いかす」	７事業
基本方針３	生物多様性を「たのしむ」	７事業
基本方針４	生物多様性を「つなぐ」	２２事業

#### 《委員》

施策テーマと各事業（案）の項目について了承。ゼロカーボンシティ宣言は素晴らしいことですが、それを実現するために何が必要かの議論が必要だと思う。

「野田市の豊かな自然と歴史をしっかりと伝える」ことは極めて重要ですが、具体策が不明確です。市立博物館、公民館、駅等における展示を検討するなど、これまでに十分行われていなかった具体策を示すことも一案でしょう。

「生物多様性教育」は子供たちだけでなく、広く社会教育として進める具体策が必要だと思う。

「市民の森」の整備が不十分であることが市民会議で報告されているので、拡大も重要だが、整備が十分でない現状の改善に対する具体策も知りたい。

#### 《委員》

No. 49 の生物多様性教育について、例えば、我孫子市教育委員会では、夏休み自由研究作品の手賀沼を題材にした研究レポートについて、県につながるルート（通常金賞、銀賞、銅賞）とは別枠で「手賀沼賞」を制定し顕彰しています。野田市でもこのような顕彰表彰ができれば児童・生徒の中に野田の自然に目を向ける者が増えてくるのでは、と思う。「（仮称）野田自然賞」の新設を提案したい。

No. 3 の市民の森の推進について、指定だけでなく最低限度の保全活動（不法投棄防止パトロールや落葉倒木の除去等）は必要。

No. 9・10 の外来種対策について、駆除対象種を市民にどう認知させるか。市報等で具体的な種を示すなどして、協力してもらう手立てが必要。

No. 33・34 の在来植物について、在来植物には多くの虫がつく（生態系を考えれば当

然)。市民レベルでどうクリアするか。

No. 38 の生き物マップについて、むやみな採集、盗掘につながらないようなマップをどう作るかが課題。

《委員》

「こうのとりの里」施設の充実化（例．観察路の整備（新建設））、「（仮）生物多様性センター（兼施設）」の設立、「市民の森」を含む調査地点（地区）の年1回の点検事業は必要。

《委員》

市民の関心を高め意見を求める機会として、「市民の森」や「こうのとりの里」などのモニターツアーを実施してはどうか。

《委員》

「たのしむ」の方針の中の事業で「地球温暖化と生物多様性の関係の理解の促進」があります。内容には、情報発信と記載されているので「つなぐ」の方に近いと思うがいかがか。

《委員》

生物多様性をまもるについて、東京理科大学の理窓公園には野田市の原風景を思わせるような自然環境が多く残っており、利根運河に隣接しており貴重な場所である。市内ではここだけに見られる植物もあり、種の多様性が高い。したがって、ここの生物相を把握しておく必要があると考える。できれば定期的な経年変化を記録しておくことも良いと思う。この地域が大学と市民の連携により維持・保存されてほしい。

在来種の保存については、その場所の保全が一番だが、場所の改変に伴い植物の場合は移動できず多くの場合絶滅につながる。市内での希少種は他の場所に移植ということも方法の一つとして検討してほしい。

生物多様性をいかすについて、コウノトリ施設を見学される方々は自然環境全般にも関心が高いと思われるので、コウノトリ施設を見学の際に三ツ堀里山自然園の紹介を併せて行い、自然園の入口にある説明掲示板にはコウノトリ施設の案内を掲げ相互

の連携を持つようにしたら良いのではないかと思います。

新聞で「中央の杜」のヤマユリが咲いたという記事を見て三ツ堀里山自然園でも咲いているのでは、と思い見に来られた方がいた。マスコミへの情報発信の威力を感じたので外部への情報発信を多くすることも必要でしょう。三ツ堀里山自然園では東京の近くで珍しくなったミドリシジミやクリの花に集まるカミキリムシなどが見られる場所として、また、オミナエシの花に集まる蝶を撮影に来られる人たちもいるので、コウノトリ施設に隣接する林も水田とともに里山の一部として広く知られる場所になればと思う。湿地は開発されやすく市内でもまとまったハンノキ林は幾つも残されていないので、残し方を検討してほしい。

生物多様性をつなぐについて、生物多様性の認知度を高めることは重要だと思う。その中で生物多様性から受ける生態系サービスという考え方、多様性があることによって具体的に受ける（無意識のうちに受け取っている）恩恵を同時に知ってもらうことも重要だと思う。資源供給の面では食料（穀物、魚介類、肉など）、水、木材、衣料、医薬品などの材料として、昆虫による受粉、自然災害の軽減（洪水、気候、水の循環など）、自然景観、レクリエーションなどの文化的な面など、そしてこれらを支える土壌の役割など自然生態系の保全はどんなに役に立っているか考えてもらうことが大事である。

また、ボランティアの登録は育成とともに重要である。ネット上には生物写真があふれていて閲覧する人も多くいると思う。環境調査では調査員のほかに広く一般の興味ある人たちをボランティアとして募集することも良いと思う。知識より自然環境調査に興味を持って行動してくださる方々が重要である。そうした中で更に興味を持ってもらえる方が増えることにより自然環境意識がより広く認識され、高まることが期待される。文化、歴史の面でも同様である。特に生物調査では「多数の人の目」が重要だと思う。

その他、郷土博物館と連携した活用を考えることも良いと思う。例えば学芸員の専門分野によっては負担が多くなることも考えられるが、現在でも昆虫、植物標本が収蔵されていますので郷土資料の一部として保存や展示してもらい、自然環境保全に関するような特別展などを企画していただくことも良いのではないかと思います。

これまでの（～これからも）集められ蓄積された情報は郷土博物館とも共有することも検討してほしい。生物調査などは〇〇年代にはどこがどうであったかなど、後代

には貴重な資料になるのではないかと思う。

#### 《委員》

「市民の森」の保全、拡充を急いでほしい。小さな森がなくなっている。森、斜面林の地主さんが協力しやすい体制、税制を早急に作ってほしい。地主さんの優遇、感謝することなどを考えてほしい。

生物調査員の育成について、調査員を募集してもすぐに調査ができるわけではない。調査員を育成していくことは、今から始めないと調査は続かないと思う。

ボランティア登録制度について、市民にもっと関心を持ってもらうような広報をしていただきたいし、市民と団体をスムーズに繋ぐような方法を取れるようにしてほしい。

#### 《委員》

取組事業として59あるが、同時にスタートすることはとても不可能なこと。

水田ビオトープの整備については、農家に配慮して検討してほしい。

コウノトリについて、どのように活用していくかしっかり記載してほしい。

エコネットについては、既に行っている取組にも触れてはどうか。

野田の農産物は、米以外は、キャベツ、枝豆、ナス、トマトなどが多く収穫されているので、ブランド化の推進をもっと検討してほしい。

生き物マップによる周知PRについて、地主への協力要請、駐車場の整備、時間の管理（夜の野鳥の探索などは物騒になる）など、その場所の環境づくりが大事だと思う。

連携・協働・交流について、市民団体、企業、事業者等だけの取組発信だけではなく、一番関係のある農家、自治会にも生物多様性活動の認知徹底が必要だと思う。

#### その他、今後のスケジュールについて（資料5）など

##### 《事務局》

今後のスケジュールについて説明。

《委員》

たたき台を出してくれたことはとても良いと思うが、今回の原案を拝見し、意見交換が  
尽くされていない点も感じました。ヒアリングと会議を重ね、十分な意見集約をしてほし  
い。

以上